



YMCA 大阪青年

9

2022年9月1日発行
1916年6月1日創刊
発行/小川 健一郎
編集/大阪 YMCA 広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>

2022年に大阪YMCAは創立140周年を迎えました



地域共生社会に寄与する大阪YMCAへの期待

私と大阪YMCAの出会いは結構古く、小学校時代に天王寺にある南YMCAの「ウエルネス・スポーツ体育教室」に通っていました。幼少期から小児ぜんそくがあり同級生の運動にはまはたたくついていけなかった虚弱児だった私に、トランポリンや跳び箱等を優しく教えてくれた体操教室のリーダーの笑顔が今も忘れられません。優しく関わってくれた大学生リーダーの存在が、私のソーシャルワーカーとして、また教員としてのアイデンティティ形成に大きな影響を与えていただいたと今も感謝しています。私のゼミ生からも3名の大学生リーダーが育っていきました。

2020年初頭から始まった新型コロナウイルスによる肺炎感染拡大の影響はこの2年以上にわたり、学校の一斉休校や、イベントの中止、外出や地域活動の自粛等、我々の日常生活に深刻な影響を与えました。ボランティア活動も多くの制限を受け続けており、「社会的孤立」も非常に深刻な状況です。

このような状況だからこそ、“温故知新”が大切であると考えます。“温故知新”とは、「以前

学んだことや、昔の事柄をふり返り、今できることを考え新しい道理や知識を探り当てること」という意味があります。

日本YMCA基本原則(ミッション)である「私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公正をもとめ、喜びを共にし痛みをわかちあう社会をめざします」は、実際に社会福祉活動やボランティア活動が、大きな制限を受けて十全にできない状況だからこそ、まさにウィズコロナ社会の新しい社会福祉のミッションとして光り輝いているといえます。

2021年4月に「地域共生社会を実現するための社会福祉法」が施行されました。同法では、①相談支援(本人・世帯の属性にかかわらず受け止め断らない包括的相談支援)、②参加支援(地域資源を活かしながら、就労支援、居場所支援などを提供することで社会とのつながりを回復する支援)、③地域づくりに向けた支援(地域社会からの孤立を防ぐとともに、地域における多世代の交流や多様な活躍の機会と役割を生み出す支援)の3つの支援を打ち出しました。従来の行政や専門職だけで取り組む、高

齢・障害・子ども家庭等の縦割りによる支援を改め、行政や専門職とボランティアや地域住民が協働し、支えられる側と支える側に分かれるのではなく、すべての住民が役割をもち支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティの創造を目指す同法のミッションは、まさに大阪YMCAが取り組む社会福祉事業のミッションである「保育・子育て支援・介護・みんなの居場所づくり・社会福祉の担い手としての専門養成」といった全世代・全対応型の社会福祉事業と通底します。この大阪YMCA社会福祉事業のミッションは、ウィズコロナ社会を乗り越え、新たなつながりを創る非常に重要なミッションであると確信しています。



大阪教育大学教育学部
教育協働学科
教授

あらかき くにひろ
新崎 国広

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。

地域共生社会の実現に向けたYMCAが果たすべき使命

～ネットワーク型福祉社会の実現に向けて～

YMCAサンホーム施設長 **大塚 由美**

子ども・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現を目指すには、様々な関係者や機関との協働実践が求められます。YMCAは、地域住民や資源などを結びつけることを具体化するために、多世代・多様な人が集い、地域・行政・必要な関係機関と連携を行う「ネットワーク型福祉社会」の実現を目指しています。

特別養護老人ホーム YMCAサンホームは、誰もが人の支えを必要とし、誰もが人の支えになることができるよう、地域とともに歩む法人として、多様化する福祉ニーズに応えるさまざまな活動を行っています。現在はコロナ禍の影響により一部制限をしていますが、子ども広場や施設内ボランティア活動、地域や関係団体との協働プログラムとして「らくらく車いす登山」など、地域の子どもから高齢者が集うことのできる多世代交流の拠点となっています。

今後も保育や介護、居場所づくりなど、ウィズコロナだからこそ、より一層「ともに支えあう機能」を強め、地域で生活する一人ひと

りの幸せを願い、「福祉社会」の実現に向けた取り組みをすすめていきます。



YMCAサンホーム1階の喫茶はもにーでは、地域のボランティアさんが美味しいコーヒーと笑顔で迎えてくださいます。サンホーム入居者・利用者の憩いと交流の場となっています。

ユースの声

YMCAとさぼり保育園 **釜山 和子**

私は4月からとさぼり保育園で保育士として働いています。元々私の妹や弟がとさぼり保育園の卒園児であり、通っていた当時に妹や弟が毎日園で楽しくイキイキと過ごしている姿を真近で見ました。このように妹や弟が過ごしているのは、園で働く先生方の子どもたちへの対応や声掛けによるものではないかと感じていて、大阪YMCAの保育を学びたいと考え、大学在学時にはとさぼり保育園に実習へ行きました。実習では、3歳児クラスに入りました。ある日、子どもが小さな擦り傷をつくり、絆創膏を貼ってほしくて保育士のところに来て、「先生、怪我した」とだけ伝えました。保育士が察してすぐに絆創膏を貼ることは簡単ですが、その保育士は、「怪我したのね、どうしようか」と子どもにどうしたいのかという声掛けを行っていました。ささいなことだが、そうすることで様々な場

面で子ども自身が考えて伝えることができるようになる効果があると、その保育士に教えていただいたことが特に印象に残っており、志望動機に繋がりました。

私自身まだまだ学ぶことが沢山あり日々勉強ですが、子どもたち一人ひとりの気持ちや育ちに合わせた関わりをする先輩方の姿を見て学びながら、子ども自身が考え、心を動かし、行動することができるよう成長を支える保育士になれるように頑張ります。



YMCAストーリー

YMCAサンホームボランティア **芳澤 伸之**

私がYMCAを知ったのは今から22年前のことです。何の趣味もなく、ただただ仕事場と自宅の往復の毎日。当時45歳の私には軽機のきっかけを見つけに社会福祉協議会に通ったものです。とある日、YMCAサンホームの掲示板に「喫茶ボランティア募集」の掲示を見つけ、ここからYMCAと共に歩むスタートを切ったのです。4年間毎週土曜日に喫茶のお手伝いをさせていただきました。自身の人生観も徐々に変わっていき、ワイズメンズクラブ[®]に入会し、ボランティアの基礎を教えてもらいました。その後サンホームの車いす清掃を毎年行い18年が経ちます。近隣の大阪商業大学高等学校の生徒も車いす清掃に参加して10年になり、授業の単位数にも組み込まれています。輪はどんどん大きくなってきました。67歳になった今、「ながぐつ会」を主宰し、15名のメンバーで八戸ノ里から

布施までの約3キロの清掃業務を月一回行っています。今後はサンホームのベッド清掃と東大阪市の老人施設を隈なく回って車いす清掃をしていきたいと思っています。YMCAと出会えたことに心より感謝いたします。



※ YMCAの活動を支援することを第一の目的として、地域・国際社会に奉仕するボランティア団体

第20回世界YMCA大会報告

グローバル事業グループ責任者 **林 健太郎**

7月3日から8日、デンマークのオーフスで「世界YMCA大会」が開催されました。この大会は4年に一度開催され、世界に広がるYMCA運動にとって大切な大会であり、国や地域の違いを超えて共にYMCA運動を進めるために協議・交流する場です。今回は会場とオンラインのハイブリッド形式で開催され、それぞれに約1,000名が参加し過去最大の大会となりました。大阪YMCAからは会場に小川総事と私が、オンラインで20名が参加しました。

大会のテーマは「IGNITE(火をともし)」でした。新型コロナウイルス、又ロシアのウクライナ侵攻により世界もYMCAも一変しました。世界のYMCAが再びつながり、共に学び、考え、社会課題に対応するための変化に火をともしことを目的に、次のことが行われました。

●2030年に向けた世界のYMCAの共通のビジョン「VISION2030」が採択され、4つの目標が示されました。

- ① Community Wellbeing(コミュニティエルピーイングファースト)
- ② Meaningful Work(やりがいのある仕事と環境の創造)
- ③ Sustainable Planet(持続可能な地球のために)
- ④ Just World(公正な世界の実現のために)

●ユースにより100以上のセッションや分団協議が開かれ、さらなる発展と共創をめざし、世代を超えてグループディスカッション等、共同作業が行われました。

●投票により世界YMCA同盟の新役員が選任されました。新会長はSoheila Hayek氏、レバノンYMCA出身です。

●大阪YMCA総事はWorld Urban Networkに所属しており、私もその会議にも出席しました。世界の大都市にあるYMCAの総事・CEOが集まり、YMCAの経営について協議し、研修を行いました。特にコロナ禍で世界各地のコミュニティでは何が起き、YMCAは何をしたのかについて振り返りを行い、今後の発展に向けた具体的な方策を協議しました。

世界大会を通して、世界のYMCAが共通のビジョンの下、一つとなって歩んでいくことを決意し、また実感した大会でした。次回2026年はカナダのトロントで開催されます。



大会の運営にかかわったユースボランティアたち

140周年記念コラム③ 初代 大阪YMCA土佐堀会館

1885年(明治18年)、東京に鹿鳴館が竣工した頃、大阪に適当な講演会場や一般公会堂がないため、欧州、オーストラリア、北米のYMCAからの寄付とYMCA会員からの寄付などにより、1886年(明治19年)11月3日に現在の土佐堀の地で奉堂式(献堂式)をおこないました。

定礎石(コーナーストーン)には、「To the glory of God, August 1886-顕栄明治19年8月定礎」と刻んであり、現在の会館1階に現存しています。



私のSDGs ～YMCAサンホーム～

YMCAサンホーム **大石 和秀**

YMCAサンホーム食生活創造室では、入居者の心身の健康への配慮はもちろんのこと、フードロス削減のために、一人ひとりの身体の状態や食べる量に合わせた食事を提供しています。また食材は使いきれぬ量だけ仕入れる。野菜の可食部分は捨てずに使用する。和洋中バラエティに富んだ献立を提供し食べ残しを少なくする。食材は地域の業者に納品してもらい、顔の見える関係を大切にする。といったことを実践しています。



余った食材は残さず使いきります。栄養もおいしさもぎゅっとつままった具だくさんスープ。

ご寄付に感謝申し上げます



大阪長野ワイズメンズクラブ創立45周年を記念して、普段から関わりの深い堺地域リーダー活動のために支援金を頂戴しました。リーダー活動の発展を祈念しており、役立てて欲しいとメッセージをいただきました。

(左)大阪長野ワイズメンズクラブ会長
瀧本 泰行さん

大阪なかのしまワイズメンズクラブの吉田 由美さんが、2020年7月から2021年6月期にワイズメンズクラブ中西部長を担われた活動への評価として、ワイズメンズクラブ国際協会国際会長よりエルマークロウ賞を受賞されました。この受賞を記念して、この度吉田さんより六甲山YMCA施設整備のためのご寄付を頂戴しました。

インフォメーション

大阪YMCA大会

日時：2022年11月23日(水・祝) 10:00~12:00(予定)
場所：大阪YMCA会館(大阪市西区土佐堀1-5-6)・オンライン(予定)

大阪YMCAの活動報告、会員表彰者紹介、交流プログラムを予定しています。

※参加方法、開催の詳細は11月に大阪YMCAホームページでお知らせいたします。

大阪YMCA大会事務局

TEL：06-6441-0894

E-mail：info@osakaymca.org

YMCA 学院高等学校開校20周年記念式典

日時：2022年10月9日(日)14:00~16:30
場所：大阪YMCA会館 2階ホール(大阪市西区土佐堀1-5-6)
内容：〈第一部〉記念礼拝 〈第二部〉生徒主体プログラム
定員：150名(事前申込制)

YMCA 学院高等学校 は2002年に開校し、本年度20周年を迎えました。開校20周年記念式典およびプログラムを実施します。当日の参加、寄付につきまして下記の二次元バーコードをご覧ください。



YMCA 学院高等学校

TEL：06-6779-5690

E-mail：hsinfo@osakaymca.org

第341回 早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

日時：2022年9月16日(金) 7:30~8:15

証し：酒井 哲雄さん(元大阪YMCA副総主事)

場所：大阪YMCA会館 10階チャペル(大阪市西区土佐堀1-5-6)

※朝食会はありません。

※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS 新着情報」でお知らせいたします。



大阪YMCA 統括本部 総務

TEL：06-6441-0894

E-mail：info@osakaymca.org

新しいYMCAの動き~ピアにほんご~

大阪YMCA日本語教育センター センター長 かめだ みほ 亀田 美保

大阪YMCA日本語教育センターでは、2022年度(令和4年度)大阪府教育庁高等学校課より「日本語教育学校支援事業」(通称「ピアにほんご」)を受託しました。大阪府下には、日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒に対して特別枠で入学者選抜を実施する高等学校が8校ありますが、入学条件に満たない生徒や、地理的理由でその8校に通えない生徒が、それ以外の高等学校にも少数散在しています。2020年度(令和2年度)には、40余りの高校に約100名が在籍しており、主にそれらの生徒を対象に、生徒の母語で学校生活や教科学習、日本語学習などを支援する「教育サポーター」を派遣しています。教育サポーターの登録数は200名余り、22言語に及んでいます。外国ルーツの児童・生徒は、家庭の事情により来日しており、必ずしも本人の意思と関係なく、新しい環境での生活を余儀なくされます。そのために、学校生活や学習に取り組む意欲が低い、日本語習得に時間がかかる分、学習に遅れが出るなどの困難が生じます。

この事業を通して、府下の外国ルーツの生徒たちの実態に触れ、より良い支援の在り方を考え始めています。学校法人大阪YMCAには、高校教育や日本語教育の豊かなリソースがあります。それらを連携させ、有効な支援につなげたいと思います。皆様のご協力、ご参加をお願いいたします。

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2022年6月・7月度報告・敬称略

【新規会員】	大石 和秀 大賀 祐樹子 大島 滯 大塚 由実 大野 真由美 岡本 泰宏 小川 健一郎 尾北 昇 越智 絵美 小島 英恵 貝 谷子 鍛冶田 千文 片岡 千賀子 片山 聡子 加藤 萌々子 河合 美保 川端 康博 菅田 斉 北尾 千夏 北口 奈緒 北野 瑞季 切通 菜摘 國津 香織 神前 順次 小島 宏樹 小西 雄希 小林 直樹 小山 陽子 惟任 将彦 齋藤 薫 坂井 祐菜 坂本 実優 佐藤 直子 佐藤 政樹 澤飯 亜由美 四方 陽子 下村 崇史 大井 琴葉	末岡 祥弘 杉原 育夫 杉村 徹 杉村 晃治 杉山 聡子 隅田 薫 勢井 智子 関 美穂 妹尾 直子 平良 勇人 高木 麻友 高田 いずみ 高橋 京子 武田 文男 竹中 豊明 竹野 寛美 立山 英展 田中 真奈美 田中 有香 田宮 芳光 津田 晃男 寺田 咲子 土居 いずみ 堂本 陸子 徳野 優月 戸張 千瑠 中井 琴子 中西 創楽 仲原 成岳 中村 逸美 中村 美紀 並木 聡子 西川 香 西村 麻衣 野口 賢太郎 野田 寿加子 則兼 千世 橋本 圭子	橋本 惠典 浜野 慎也 浜野 昌保 林 健太郎 林 貴子 原 寛 日野 多栄子 樋上 恵一 弘田 優子 伏見 茉琴 伏見 祐子 藤原 未帆 船戸 輝久 古谷 佳之 前田 まどか 牧野 夏実 榎井 智之 増田 起世子 松浦 恵子 松尾 朋巳 松坂 佳江 松崎 友香 松村 真心子 松本 好史	箕浦 史郎 村上 いちか 森 哲史 森山 恒貴 八木 恒朗 八束 浩一 矢野 成悟 山内 淳子 山口 恭平 山佐 亜津子 山田 理學 山田 弥子 山地 弘伸 山根 一毅 山辺 聡子 山本 晃平 山本 駿 横山 伊津子 吉川 佐和子 吉川 尚志 吉田 絵理 吉田 陽香 吉松 環 和田 榮理
【継続賛助会員】	株式会社ウチダシステムズ 大阪シティ信用金庫 積水化学工業株式会社 積水ハウス株式会社 忠岡税務会計事務所 ツジカワ株式会社 株式会社フジオフードシステム 堀江電機株式会社 株式会社マンダム リコージャパン株式会社			

大阪YMCAのホームページで
その他の情報をご覧ください
ます。

